

# 目 次

はじめに

序 章	なぜヤングケアラーはケアをしない選択肢をとることが困難なのか	3
1	研究の背景	3
2	ケアをしない選択肢と貧困	5
	(1) 子どもがケアを担う要因とされたもの	5
	(2) ケアをしない選択肢をひらくことと貧困	7
3	イギリスのヤングケアラー研究における貧困	9
	(1) ヤングケアラー研究の起り	10
	(2) 貧困についての議論や言及	11
	(3) ヤングケアラーとその家族の貧困に着目した研究の不足	20
4	日本国内のヤングケアラー研究の批判的検討	20
	(1) 誰もがケアを担うという想定あるいは前提から出発する	21
	(2) 貧困に応じてケアを担う子どもと狭義のヤングケアラーとの混同を懸念する	22
	(3) 親を非難しないために家族の生活実態を問うことを避ける	25
	(4) 子どもと他の家族員とのあいだのケアをめぐる交渉に踏み込まない	27
5	ヤングケアラーと家族の貧困に関する3つの問い	28
第1章	ヤングケアラーと家族の貧困に関する議論の整理	33
1	子どもがケアを担う世帯の経済状況	33
	(1) ヤングケアラーに関する量的調査から示唆される経済状況	33
	(2) 子どもの生活実態調査から示唆される経済状況	35
2	家族の生活の組み立てと子どもの担うケアの位置づけ	38
	(1) 資源の不足のもとで子どもがケアを担う	38
	(2) 家族の生活の組み立て	40

3	子どもの直面する制約とその経験	42
	(1) ケアをめぐる交渉において子どもの直面する制約	42
	(2) 貧困下でケアを担う子どもの経験	44
4	先行研究の評価	46
<b>第2章</b>	<b>子どもと家族の生活を捉える視点</b>	<b>49</b>
	——貧困に着目し、主体として捉える——	
1	3つの研究課題	49
2	分析の視点	50
	(1) 全体としての分析の視点	50
	(2) それぞれの研究課題における分析の視点	52
3	研究方法	58
<b>第3章</b>	<b>量的調査にみる子どもと家族の生活</b>	<b>61</b>
1	調査および分析対象データ	61
2	ケアの状況などの概観	62
	(1) 基本属性	62
	(2) ケアの状況	65
	(3) 学校生活における不利や困難	70
	(4) 小括	73
3	子どもがケアを担う世帯の貧困	74
	(1) ロジスティック回帰分析の概要	74
	(2) 分析に用いる変数	75
	(3) 分析結果	78
	(4) 小括	82
<b>第4章</b>	<b>ケアを担う母親からみる子どもと家族の生活</b>	<b>87</b>
1	調査方法	87
2	生活の組み立てにおける不利や困難	88
	(1) 時間や人手の不足	89
	(2) 睡眠や余暇の削減	94
	(3) 身体的・精神的な不調	95
	(4) 就労の難しさ	97

(5) 家計の苦しさ	100
(6) 小括	103
<b>3 ケアを社会化する社会資源の利用のしづらさ</b>	<b>104</b>
(1) 社会資源を利用して助けになることの確認	104
(2) ケアニーズに主に関わる利用のしづらさ	106
(3) ケアの供給に主に関わる利用のしづらさ	112
(4) 小括	121
<b>4 子どもがケアを担うことによる生活の維持</b>	<b>121</b>
(1) 子どもにケアを頼んで生活を維持する助けにする	122
(2) 子どもがケアをしてきて生活を維持する助けになる	127
(3) 子どもがケアを担うことへの母親ケアラーの葛藤	134
(4) 小括	142
<b>第5章 子どもの直面する制約とその経験</b>	<b>145</b>
<b>1 調査方法</b>	<b>145</b>
<b>2 利害の不一致と不均衡な権力関係</b>	<b>147</b>
(1) ケアを必要とする家族員とのあいだの利害・権力関係	147
(2) 他の家族員とのあいだの利害・権力関係	149
(3) 利害・権力関係のもとでのケアの継続	152
(4) 小括	153
<b>3 ケアをめぐる交渉において子どもが直面する制約</b>	<b>153</b>
(1) 生活を維持するためのケア	153
(2) 決裂点における子どもの状況の劣悪さ	155
(3) 自己利益への認識の弱さと他の家族員の利益の優先	158
(4) 小括	160
<b>4 貧困下の生活における制約の経験</b>	<b>161</b>
(1) 家計の苦しさへの認識と家計を支えるという対処	161
(2) ケアと就労の両立困難への認識とケアを担うという対処	163
(3) 貧困に陥る可能性への認識と経済的安定を維持するという対処	166
(4) 小括	168

終章 ケアをしない選択肢をひらく .....	169
—「生活のかかったケアの強制性」に抗して—	
1 3つの研究課題の分析結果 .....	169
2 生活のかかったケアの強制性 .....	172
3 ケアをしない選択肢をひらくために .....	173
(1) ケアの公正な社会的分配に向けて .....	174
(2) ケアをしない選択肢をひらく条件と方向性 .....	174
(3) 今後の研究における課題 .....	177
引用文献 .....	179
初出一覧 .....	189
おわりに .....	191
索引 .....	193